

2025 年 12 月 23 日

## 北米西海岸 LNG の台頭可能性

### - 優位性・課題と開発プロジェクトの近況 -

一般財団法人日本エネルギー経済研究所  
資源・燃料・エネルギー安全保障ユニット

上級スペシャリスト 橋本 裕

#### はじめに

2025 年 7 月、カナダ西海岸から本格的に LNG 輸出が開始され、今後北米西海岸がアジア太平洋地域の LNG 消費市場にとり、重要な供給源として台頭する可能性がある。

LNG Canada プロジェクトは、今般稼働開始した第 1 段階の設備が年間 1400 万トンの出荷容量を持つ。2025 年 7 月から 12 月の 6 ヶ月間に、合計 28 カーゴ、推計 200 万トンを、北東アジアの 4 市場向けに出荷した。2026 年以降、堅調な立ち上がりが期待される。

本レポートは、何故今、北米西海岸からの LNG 輸出が注目されるべきか、優位性・課題を解説する。カナダ、メキシコのプロジェクト開発の近況を示す。

#### 1 北米西海岸からの LNG 優位性と課題

##### 1.1 地理的優位性

1.1.1 アジア太平洋市場に向けて LNG を輸出するために、距離が米国ガulf 地方からの供給に比して大幅に短縮される。カナダのブリティッシュコロンビア州からの出荷の場合、2025 年後半の実績で、日本向け最短 11 日間、韓国向け最短 12 日間で到達している。米国ガulf から北東アジアへの LNG 輸送では、パナマ運河経由で 30 日、アフリカ南端廻りで 40 日以上を要している。

1.1.2 北米西海岸からの輸送では、パナマ運河のようなチョークポイントを通航する必要もない。

##### 1.2 供給源多様化

1.2.1 豪州などオセアニア、東南アジア、中東、アフリカ、北米東海岸に加え、特にカナダやメキシコなど、供給源を多様化できる。ロシアのサハリンからの LNG 供給が不確実性を抱える中で、供給源を多様化することが重要。

##### 1.3 アジア諸国間の協力可能性

1.3.1 北米西海岸の LNG プロジェクト開発では、エネルギー供給セキュリティを重視するアジア諸国の企業・政府間で協力できる。実際、LNG Canada プロジェクトには、日本、韓国、中国、マレーシアの企業が参画して、それぞれの国の LNG 供給セキュリティに貢献している。

##### 1.4 米国西部生産諸州など北米の天然ガス余力活用、経済効果

1.4.1 米国ガulf 地域の大型 LNG 輸出設備の拠点となっているテキサス州・ルイジアナ州あるいはその周辺のガス生産諸州で、LNG 輸出設備にガスを供給することにより、国際市場の相対的に高価格を活かして、ガス生産の経済的

利益が拡大している。テキサス州・ルイジアナ州は、**2024** 年時点で米国ガス生産の **35%**を占めた。

**1.4.2** 米国西部でガス生産量が多いロッキー山脈地域周辺のワイオミング州、ユタ州、コロラド州、ニューメキシコ州は、4 州合計で米国ガス生産の **15%**程度を占めるが、相対的に国際市場と連結する旨味を享受していない。メキシコ太平洋岸北部に LNG 輸出設備が実現すれば、これを通じて米国産天然ガスの国際市場へのアクセスが拡大して、ガス生産諸州に経済的利益がもたらされ、生産・開発活動がさらに活発化する可能性が高い。

**1.4.3** カナダ西部のガス資源も国際市場へのアクセスの便益を受ける。

#### 1.5 推進上の諸課題

**1.5.1** 市況サイクル変動の中での需要の確保が重要である。**2025** 年は世界の LNG 貿易が堅調に増加する一方でアジア LNG 輸入量が減少となる見通し。**11** 月までの輸入量は、世界全体で推計前年同期比 **4%**増加に対して、アジアは同 **5%**減となっている。市場との対話促進を通じて、安定的な引き取り手を確保することが開発推進のカギとなる。

**1.5.2** LNG 設備に加え、原料ガス輸送パイプラインを含むインフラストラクチャ一開発のための許認可確保・地域合意確保・環境リスクの回避が重要となる。労働力、エンジニアリング・建設生産性の確保、投資決定後のタイムリーな建設完了・遅延の回避が重要となる。

### 2 カナダ太平洋岸のプロジェクトの近況

**2.1** LNG Canada: 7 月の出荷開始後、輸出設備の立ち上がりが続いている。さらにフェーズ 2 検討も動き出している。

**2.2** Cedar LNG: **2024** 年 6 月に投資決定済み。**2025** 年には建設推進とともに、LNG 引き取りのターム契約確保も進めた。**2028** 年末の商業運転目標としている。

**2.3** Woodfibre LNG: **2025** 年は、建設が半ばまで進展、**2027** 年稼働予定としている。

**2.4** Kxi Lisims LNG: **2025** 年は、環境手続き面、政府支援確保の面に加え、販売面も前進しており、近く建設開始見込みとしている。

### 3 メキシコ太平洋岸のプロジェクトの近況

**3.1** ECA LNG (Energía Costa Azul): **2026** 年早期に商業運転開始見込み。TotalEnergies ・三井物産向けの 20 年間の販売取引を確保している。ECA LNG Phase 2、および別地点での Vista Pacifico LNG が検討されている。

**3.2** Saguaro Energía: 複数の信頼性高い引き取りのコミットメントを確保して、投資決定の準備中としており、輸出開始期限の延長を米エネルギー省に申請している。

**3.3** Amigo LNG: **2026** 年第 1 四半期の投資決定を目指し、輸出開始期限の延長を米エネルギー省に申請している。

問い合わせ: [report@tky.ieej.or.jp](mailto:report@tky.ieej.or.jp)

付表

1 LNG Canada による LNG 出荷カーボ数 (輸入国別)

	日本	韓国	中国	台湾	合計
2025/07	1	1			2
2025/08		1	1		2
2025/09		4	1	1	6
2025/10	2	1	1	2	6
2025/11	4	1	1	1	7
2025/12	1	2	2		5

2 カナダ産 LNG 輸入価格 (輸入国別) (米ドル/100 万 Btu)

	日本	韓国	中国	台湾
2025/07	9.31	11.22		
2025/08		10.64	13.12	
2025/09		10.95	11.91	9.97
2025/10	9.59	12.49	11.38	11.68
2025/11	未詳	9.12	10.86	10.92

(出所) 各国貿易統計より、算出

(註) 緑色カラム数値は、当該国の LNG 輸入全体平均価格を下回っているケース